

千代鈴の連勝

紙相撲新聞

第159回本場所
八～九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

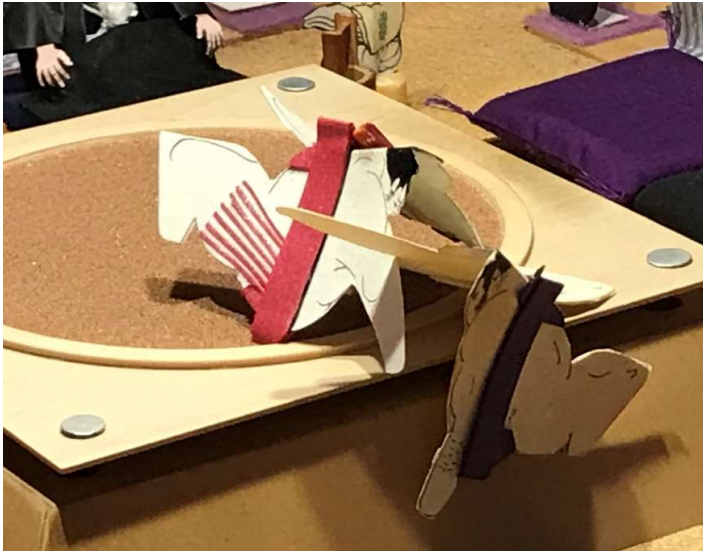
千代鈴、盤石な相撲で隙なし

1敗で弟弟子の西神門が追走

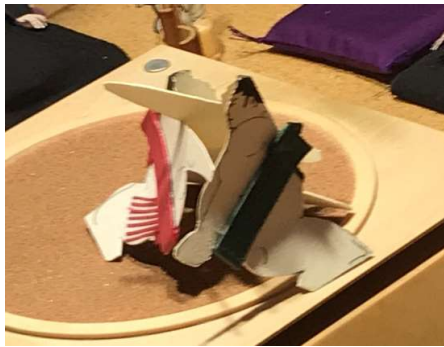
〔第一百五十九回本場所八日～九日目〕

真夏とも思える暑さの中、幕内の八日目と九日目が行われ、横綱千代鈴が圧巻の強さで9戦全勝とただ一人全勝街道を走る形となった。これを1敗で同部屋の前頭八枚目西神門が、さらに2敗で平幕の綱乃花、鬼ヶ嶽、喜乃郷の3人が追う展開。

今場所は先場所の横綱大関による優勝争いが嘘のように、横綱若ノ嶋と横綱春ノ翔が途中休場し、大関大楽も



九日目、全勝の千代鈴は1敗で追う鬼ヶ嶽の挑戦を受けるが、立ち合い一気の寄りで鬼ヶ嶽に相撲を取らせず完勝した。



八日目、関脇烏帽子岳に隙を与えず、一気に関脇に寄り切り、初日から土つかずの8連勝。

「今場所の優勝は千代鈴で間違いないだろう。あとは全勝で飾るかどうかな。」と朝日松理事長が九日目を終えてコメントした。

5勝4敗とまだ勝ち越していない状況。関脇以下も鹿富士、烏帽子岳の両関脇と小結月山がすでに負け越している。小結四季嶋が5勝4敗とわずかに白星を先行させているという不甲斐ない結果となっている。

「今場所の優勝は千代鈴で間違いないだろう。あとは全勝で飾るかどうかな。」と朝日松理事長が九日目を終えてコメントした。

「おい！負け越すなよ！」と九日目の相撲を終えた大楽に朝日松理事長から檄が飛んだ。十日目は8勝1敗で千代鈴を追う西神門との対戦が予想され、千代鈴は1敗で追う鬼ヶ嶽と勝ち越しも容易でなさそうだ。

「千代、強えなあ！」と親方衆から声がかかるように隙のない相撲が続いている。2横綱が休場して、千代鈴の対抗馬として期待された大楽だったが、まさかの初日から連敗スタート。そこから立ち直ったかに見えたが、七日目に鬼ヶ嶽に敗れると、八日目に初顔の六歌仙に勝つたものの、九日目に鹿富士に左を差しながらも出足を欠き痛いの4敗目を喫した。



大楽●(引き落し)○鹿富士

- 全勝 千代鈴
- 一敗 西神門
- 二敗 綱乃花 鬼ヶ嶽 喜乃郷

八日目は関脇烏帽子岳との対戦だったが全く問題にせず、九日目は1敗と好調の元大関鬼ヶ嶽だったが、両者組み合わず、取り直しの相撲では踏み込みよく鬼をがっちり掴まえて寄り切りを下した。

「千代、強えなあ！」と親方衆から声がかかるように隙のない相撲が続いている。

2横綱が休場して、千代鈴の対抗馬として期待された大楽だったが、まさかの初日から連敗スタート。そこから立ち直ったかに見えたが、七日目に鬼ヶ嶽に敗れると、八日目に初顔の六歌仙に勝つたものの、九日目に鹿富士に左を差しながらも出足を欠き痛いの4敗目を喫した。

「おい！負け越すなよ！」と九日目の相撲を終えた大楽に朝日松理事長から檄が飛んだ。十日目は8勝1敗で千代鈴を追う西神門との対戦が予想され、千代鈴は1敗で追う鬼ヶ嶽と勝ち越しも容易でなさそうだ。

1敗で兄弟弟子の千代鈴を追う西神門は先々場所を8勝1敗で敗戦を喫し、先場所は5勝6敗と負け越したが、今場所は場所前の稽古の成果が見違えるような相撲を取っている。

前半戦の相撲を見て「今場所は千代鈴と西神門の優勝争いになるかもしれない」と語った朝日松

理事長の予想通りの展開となってきた。

三役陣が振るわない中、綱乃花が大器の片鱗をみせる相撲を取っている。八日目は小結四季嶋を押し倒し、九日目は出羽翼に完勝。ここまで7勝をあげて、来場所の三役復帰は確実で、新関脇の可能性も出てきた。



綱乃花○(押し倒し)●四季嶋

「いよいよ来場所は大関獲りの場所かい？」と錦風親方が話を向けると、「何言ってるんだよ、まだ早いよ。」と笑いながらも心の中では「いよいよだ(大関獲りが)！」と密かに喜びを噛みしめる友砂親方だった。



出羽翼●(寄り切り)○綱乃花

逆に大関獲りに挑戦していた鹿富士が負け越してしまった。

2勝5敗と後がない星で迎えた八日目の対戦相手は佐賀ノ海。これまで5勝1敗と合口が良く、鹿賀乃戸親方の頭の中では、鹿賀乃が左を差してそのまゝ寄り切るというイメージが出来上がっていたが、勝負は佐賀が十八番ののど輪から左を差して鹿富士を寄り切った。三役で3場所連続勝ち越していた鹿富士だったが、6敗目を喫して負け越してしまった。



佐賀海○(寄り切り)●鹿富士

今場所も残すところ2日。横綱千代鈴の優勝は先ず間違いのないところだろうが、すんなり優勝となるのか、それともまさかの落とし穴があるのか。千代鈴は8月下旬の開催予定だ。乞うご期待！



(錦風)